

平成二十七年年度（第三回）高校生世代「人権の詩」うた

【優秀賞】

君と私とブランコと

江津高等学校 はるちゃん（ペンネーム）

ねえ君は 私の前で
いつもにこにこ笑っていたね

学年もクラスも違う 君と私が会えるのは
昼休みの時間だけ
ふたりで他愛のないことを話しながら
ブランコで遊ぶ毎日
今でも思い出すよ

ある日知った
君が私たちと少し違うということを

周りの友だちに言われた
「あの子はおかしいから
一緒にいない方がいい」

私はとても臆病で
周囲の目を気にしてしまった
君から逃げてしまった

その日から
ふたりの時間はなくなって
会うことも 話しをすることも
なくなつた

ねえ
君と私 何が違ったのかな
君がおかしいと 誰が決めたのかな
どうして私は
自分の気持ちを 押し込めちゃったのかな

今日も私は思い出す
社会の在り方に不信感を抱いた
あの出来事を

今も風に吹かれて揺れてるよ
君と私とブランコと